小・中学生を対象とした喫煙および受動喫煙防止教育

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　准教授　　川端　智子
研究分野：小児看護学

概要：未成年の喫煙は法的に禁止されているというだけでなく、医学的・社会的に深刻な問題を引き起こします。未成年の喫煙行動は、友人、親、兄姉、教師などの喫煙と密接な関係があるという結果が示されています。そのため、未成年へのタバコに関する教育が必要であるとともに、子どものモデルとなる家族に対しても同様に教育することが必要不可欠です。今まで未成年に対する様々な防煙教育プログラムが実施されてきましたが、子どもが親の喫煙に対する態度や考え方に影響を受けるという点に着目したものはありません。喫煙および受動喫煙防止教育活動を通して、親子がタバコに関する正しい認識を持ち続けることを目指しています。

また、近年においては喫煙開始年齢の低年齢化が問題となっており、低年齢化に影響する要因解明も行っています。

■小中学生を対象とした喫煙および受動喫煙防止教育の実践

教育プログラムには、基本的な喫煙に関する知識を伝えるだけでなく、自分が喫煙するという行動に対してどのように向き合うか、誘われた時にどのように断るかについてなど、ロールプレイを用いて、自己効力感を高める教育を行っています。

また、喫煙だけでなく、受動喫煙からどのように身を守るのかという点も重要な教育です。自分の身を守るためにどのような行動をとる必要があるかについて考えられることを目標に教育しています。





■保護者への喫煙および受動喫煙防止教育の実践

保護者へは、参観を利用し学校と協働し教育を行っています。

■喫煙開始年齢の低年齢化の要因の解明

構造方程式モデリングの手法を用いて因果モデルを作成しています。喫煙開始年齢を低年齢化させないためには、喫煙に関する知識の増大だけでは不十分であり、親や社会が子どもの喫煙に注意を払い、子どもの喫煙に対して介入していくことが重要であることが解明されました。